

第2回 富山県地域交通戦略会議の開催結果について

1. 日時 令和4年9月1日（木）15時00分～

2. 出席委員（別紙のとおり）

3. 概要

（1）地域交通戦略の基本的な方針・考え方について

- ・事務局から基本的な方針・考え方(案)を説明し、意見交換の結果、基本的な方針・考え方について下記のとおり会議として了承した

基本的な方針・考え方

- ・カーボンニュートラル等の社会からの要請に応え、ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービスの実現を目指す。
- ・自治体や地域住民の積極的関与・参画、事業者間の協調など、関係者間の役割分担・責任分担について考え、地域全体で実現を目指す。

<ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービス>

1. 誰もが利用でき、使いやすく便利で安全快適に移動できる。
2. これまで以上に社会と関わりをもち、生き生きと暮らせるようになる。
3. 日々の生活の中で获得感、満足感、新しい発見を得られる。

○意見交換（主なもの）

- ・会議として、今後公的資金のあり方を考えていく必要があると理解が得られたことは重要
- ・地域住民の積極的関与を掲げ、議論しながら進めていく姿勢は大きな一歩
- ・交通はまちづくりの一環、地域住民も受け身でなく参画していくべき対象
- ・公共交通を利用者だけでなくみんなのものとして考えていくことが重要
- ・持続的なサービスとなるよう、税金だけでなくお互い支えあう仕組みを作ってほしい
- ・交通は地域だけでは支えきれないところもあり、観光との連携も必要
- ・交通事業者が果たすべき役割分担を、国や自治体、地域住民と議論したい
- ・利便性向上に向け、国・県・市町村・交通事業者で密な議論をしていきたい
- ・利便性は大事、コストの他、多面的な取組み、多様な主体の参画・理解が必要
- ・ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービスに「安全」の文字がないので加えた方がよい

（2）当面のスケジュールについて

- ・年内に第3回会議を開催し戦略の目標について議論を行うこととし、目標の議論と並行し、部会において基本的な方針等に沿った施策等について議論を行う

(別紙)

第2回 富山県地域交通戦略会議 出席委員

(敬称略)

| 所属・役職 | 氏名 | 備考 |
|------------------------------------|--------|----|
| 東洋大学 名誉教授 | 石井 晴夫 | 会長 |
| 富山国際大学 名誉教授 | 長尾 治明 | |
| 関西大学経済学部 教授 | 宇都宮 浄人 | |
| 富山大学大学院人文社会芸術総合研究科 研究科長 | 大西 宏治 | |
| 富山県商工会議所連合会 会長 | 高木 繁雄 | |
| トヨタモビリティ富山株式会社 代表取締役社長 | 品川 祐一郎 | |
| 株式会社博報堂第二MDコンサルティング局 局長代理 | 畠山 洋平 | |
| モビリティジャーナリスト | 楠田 悦子 | |
| (公社)とやま観光推進機構 副会長・専務理事 | 川嶋 芳明 | |
| 富山県交通運輸産業労働組合協議会 議長 | 石橋 剛 | |
| (公財)富山県老人クラブ連合会 会長 | 麻島 裕之 | |
| 富山県自治会連合会 会長 | 北岡 勝 | |
| 西日本旅客鉄道株式会社 金沢支社地域共生室企画課 交通企画室長 | 鹿野 剛史 | |
| あいの風とやま鉄道株式会社 代表取締役社長 | 日吉 敏幸 | |
| 富山地方鉄道株式会社 専務取締役 | 新庄 一洋 | |
| 万葉線株式会社 代表取締役専務 | 楠 達男 | |
| 加越能バス株式会社 自動車部長 | 清水 浩二 | |
| (公社)富山県バス協会 専務理事 | 小竹 典吉 | |
| 富山県タクシー協会 専務理事 | 清澤 新一 | |
| 国土交通省 北陸信越運輸局交通政策部 部次長 | 白砂 千佳 | |
| 富山県土木部道路課 参事・課長 | 二木 勸 | |
| 富山県警察本部交通部交通規制課 課長 | 関口 健次 | |
| 富山市 副市長 | 美濃部 雄人 | |
| 高岡市 副市長 | 河村 幹治 | |
| 上市町 副町長 | 小竹 敏弘 | |
| 富山県 副知事 | 蔵堀 祐一 | |

第2回 鉄軌道サービス部会の開催結果について

1. 日時 令和4年11月4日（金）15時00分～
2. 出席者（敬称略）

| 所属・役職 | 氏名 | 備考 |
|------------------------------------|--------|-----|
| 関西大学経済学部 教授 | 宇都宮 浄人 | 部会長 |
| 富山大学都市デザイン学部 教授 | 本田 豊 | |
| 西日本旅客鉄道株式会社金沢支社 地域共生室企画課 交通企画室長 | 鹿野 剛史 | |
| あいの風とやま鉄道株式会社 代表取締役社長 | 日吉 敏幸 | |
| 富山地方鉄道株式会社 専務取締役 | 新庄 一洋 | |
| 万葉線株式会社 代表取締役専務 | 楠 達男 | |

3. 概要

9月1日の県地域交通戦略会議で了承された基本的な方針・考え方に基づく「関係者間の役割分担・責任分担」に関して、地域鉄道に対する国の支援制度をもとに現状を把握するとともに意見交換を実施

（1）現状把握

- ①あいの風：並行在来線会社として設立された経緯から、国、県、市町村、経営安定基金から支援を受けている
- ②万葉線：第三セクターとして国、県、沿線2市から支援を受けている
- ③富山地鉄：国、県、沿線市町村から支援を受けているが自社負担がある

（2）意見交換（主なもの）

- ・ 第三セクターと中小民鉄の間で支援・負担に差があることがわかり、今後の役割分担・責任分担を考えるうえで、その差をどう埋めていくか
- ・ 第三セクターと中小民鉄ともに、安定的にサービスを提供できるようにすべき
- ・ 道路は基本的に公共事業だが、鉄道は事業者のビジネスを側面支援する形
- ・ 現行の交通事業者の努力プラス補助金という形では、抜本的な課題解決につながらない
- ・ 国の支援は原則3分の1補助とされているが、予算が足りず補助額が低くなるケースがある
- ・ 国への支援拡充の働きかけも重要だが、鉄軌道への地方自治体の関わりを強めることが重要

今後、部会で示された交通事業者の現状や意見交換の内容を交通ワンチーム部会に共有。また、地域交通戦略会議へ部会の概要を報告し、引き続き議論を深める